



アポビッテ *ApoBitte!*

コミュニティファーマシーの創造を支援する情報誌

Vol. **7** 2020

特集 第7回 コミュニティファーマシーフォーラム **WEB** 開催報告



CONTENTS

03 【特集】 第7回コミュニティファーマシーフォーラム [WEB] 開催報告

2020年のフォーラムについて

04 プログラム・祝辞紹介

05 <第1部>

世界の薬剤師は今、コロナとどう向き合っているのか

フィリピン：パンデミックにおけるフィリピン薬剤師の活動

台湾：コミュニティファーマシストの視点から

～新型コロナウイルスに対する台湾の戦略～

ドイツ：コロナに負けるな！薬局を中心としたドイツの取り組み

日本：薬局をクラスターにするな！

～京都大SPH薬局情報グループCOVID-19対策プロジェクト～

08 <第2部>

ポストコロナ時代に向けて新しい生活様式（ニューノーマル）を創る

ICTを活用したつながりを創る

コロナ禍でもコミュニティファーマシー化を推し進めた薬局

ニューノーマル時代に向けて、薬剤師、薬局の進む道

12 広告出稿企業紹介

14 フォーラム宣言／フォーラム協賛企業／入会のご案内

15 JACP 2019～20年の活動報告



今号の表紙写真

ドイツ中南部の古都シュパイアーのSONNEN APOTHEKEは、世界遺産である大聖堂へ続く参道沿いにある古い薬局。壁面を飾る「ヒゲエアの杯に絡む聖蛇」と「太陽」のレリーフが見事で、名前のように夕陽を浴びて輝いていた。

ApoBittle! vol.7

発行日：2020年10月20日発行

価格：定価400円＋税

発行所：一般社団法人

日本コミュニティファーマシー協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-3

望月ビル3F

TEL03-3354-0288 FAX 03-5759-1724

発行人・編集長：吉岡ゆうこ

制作・編集：株式会社エニクリエティブ

デザイン：ヨシオカデザインルーム

印刷・製本：三昇堂印刷株式会社

<広告掲載企業>

16 田辺三菱製薬



第7回 コミュニティファーマシーフォーラム WEB 開催報告

2020年のフォーラムについて

昨年(2019年)のフォーラム宣言は、「A+CP(コミュニティファーマシー)薬局、医療機関、介護関連施設、地域住民、コミュニティファーマシーを応援する様々な企業とつながっていきましょう」でした。

今年のリアルのフォーラムは、東京オリンピック2020の開催前の7月12日(日)。メインテーマは「Face to Faceの繋がりがからICTソリューションを用いた繋がりに」を予定していました。第1部で今回のWEBフォーラムで予告編が上映された、在宅医療における医療連携をテーマにした映画「ピア」を上映し、第2部では、多職種連携プラットフォームの可能性を探るとして、今回のフォーラムに登壇されたIT企業のお三方と、あとお二人の方に登壇していただく予定でした。

しかし新型コロナウイルス感染拡大のため、4月にリアルフォーラムを断念し、WEBでフォーラムを開催するべく再度企画を練り始めました。コロナ禍の中で、どのようなテーマのフォーラムが適切か、やったことがないWEB開催をどのように実現できるのか…から始まり、どうせやるならWEB決済までできるようにと考えました。

WEBフォーラムの内容についてですが、テーマを「#コロナに負けるな!」と決めました。毎年、フォーラム参加のために来日していたドイツのアッセンハイマー氏が、今年の東京はオリンピックで大変だからと来日予定はなかったのですが、WEBを使えば遠くの人とも繋がれると考え、登壇が決まりました。そしてアッセンハイマー氏を軸として、海外の薬剤師がコロナとどう向き合ったのか、アジアの2カ国と日本、併せて4カ国の方に登壇していただくことになりました。

当初、リアルフォーラムでは、ICTを活用した人との繋がりをテーマにしようと思っていたのですが、コロナ禍によりリモートワークやオンライン服薬指導など、よりICT化が加速したように思われます。そこで医療と関係のあるIT企業3社にあらためて登壇をお願いしました。そしてJACP会員薬局の中でも、数年前からコミュニティファーマシー化を推し進めていた薬局は、結果として緊急時においても人と人の結びつきを大切に、よりコミュニティファーマシー化が進んだようです。平時から人と人の繋がりを大切にしてきたからでしょう。

今回初めてWEBフォーラムの経験をしました。ニューノーマルに向けて、とても良い経験をしたと思っています。来年もWEBで開催となった場合は、今年の課題を解決できるようにしたいと思います。参加者の皆様、拙い運営にお付き合いください、誠にありがとうございました。

一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会
代表理事 吉岡ゆうこ



当初企画していた2020年のフォーラム(リアル)のポスター



コロナ禍での開催となった2020年のフォーラム(WEB)のポスター



#コロナに負けるな!

プログラム

【第1部】

“世界の薬剤師は今、コロナとどう向き合っているのか”

フィリピン：ヨランダ・ロブレス (アジア薬剤師会連合会長・前フィリピン薬剤師会会長)
 台湾：イーシェン・ヘイマン・リー (ルイ薬局・トライメディカル薬局コンサルタント薬剤師)
 ドイツ：アッセンハイマー慶子 (セントラルアポテーケ開設者・JACP理事)
 日本：岡田 浩 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野特定講師・薬剤師)

【第2部】

“ポストコロナ時代に向けて新しい生活様式 (ニューノーマル) を創る”

「ICTを活用したつながりを創る」

石見 陽 (メドピア株式会社)
 石松宏章 (Dr.JOY株式会社)
 中尾 豊 (株式会社カケハシ)

「コロナ禍でもコミュニティファーマシー化を推し進めた薬局」

高橋正志 (岡山：マスカット薬局)
 篠原久仁子 (東京：薬局恵比寿ファーマシー)
 岡 敦子・伊藤 愛 (広島：のぞみ薬局)

「ニューノーマル時代に向けて、薬剤師、薬局の進み道」

服部益治 (医療福祉センターさくら 院長・JACP理事)



祝辞紹介



私は、皆様が80年以上の歴史のあるドイツ薬事博物館に毎年、定期的に来館していただいていることを大変嬉しく思っています。今年にはコロナ禍でお越しいただけなかったことは非常に残念でしたが、その分次回のご来館、願わくば来年にドイツ薬事博物館でお迎えできることを楽しみにしています。皆様のご健勝と第7回コミュニティファーマシーフォーラムWEBのご成功を心からお祈り申し上げます。

ドイツ薬事博物館館長
エリザベート・フーヴァ (Dr. Elisabeth Huwer)



私は、ドイツ・バイエルン州薬剤師会会長、ドイツ連邦薬剤師会副会長、ABDA(アブダ)-ドイツ連邦薬剤師連盟理事ならびにドイツ薬事博物館財団理事長(ベルリン)およびドクター・アウグスト・アンド・ドクター・アンニ・レスミュラー財団理事長(ミュンヘン)として、皆様に心からご挨拶申し上げます。そして、特にこの困難な時期に行われる第7回コミュニティファーマシーフォーラムWEBのご成功、興味深いプレゼンテーションと実り多い交流を願っております。

薬事評議員
トーマス・ベンカート (Thomas Benkert)

ドイツ・ノヴェダ社は、薬剤師の出資により設立された医薬品総合卸です。地域密着型薬局の未来に貢献しています。JACP開催フォーラムに協賛し、日本の地域密着型薬局にエールをお送りいたします。

ドイツ・ノヴェダ社

NOWEDA
 Die Apothekergenossenschaft

第1部

世界の薬剤師は今、 コロナとどう向き合っているのか



モデレーター

城西国際大学薬学部 教授・JACP理事
山村重雄

第1部は、「世界の薬剤師は今、コロナとどう向き合っているのか」と題しまして、世界で活躍する薬剤師に各国

の状況や取り組みについてお話をいただきます。

前半は、フィリピンと台湾、アジアの2つの国からのレポートです。1人目のスピーカー、ヨランダ・ロブレスさんは、今年(2020年)6月までフィリピン薬剤師会の会長を務められ、また現在はアジア薬剤師会連合会長に就任、アジアの薬剤師会全体をリードしていく存在です。2人目のスピーカーは、台湾のヘイマン・イーシェン・リーさんという、非常に若い薬剤師です。台湾では、若い薬剤師が活発に活動しており、注目

したい国であります。両国とも、薬剤師が直接生活者にアプローチをすることで、公衆衛生上の課題を解決していることが大きな特徴といえます。

第1部の後半には、JACP理事であり、南ドイツ・ロッテンブルクで薬局を開設するアッセンハイマー慶子さんに、ドイツでのコロナ禍での対策をお話しいただきます。かかりつけ薬局制度が進んでいるドイツでの対策は、日本の薬剤師に大いに参考になるでしょう。もうおひとり、京都大学大学院で、薬局と産学共同研究をされている岡田浩さんです。世界各国の共同研究者とのつながりを活かして、日本の薬局向けにいち早く情報を届けるプロジェクトを立ち上げていらっしゃいます。

いずれも、世界の薬剤師の行動を知ることで、日本の薬剤師のあり方と今やるべきことが見えてくる講演となると思います。

スピーカープロフィール



ヨランダ・ロブレス

Yolanda R. Robles
 アジア薬剤師会連合 (FAPA) 会長
 前フィリピン薬剤師会会長

フィリピン・ディリマン大学で薬学学士号、オーストラリア・タスマニア大学で薬学修士号・博士号を取得。2008年FAPA薬学教育部門におけるイシダテ賞、2014年フィリピン薬剤師会「ヒュギエイアの杯」受賞。2016年専門職規制委員会から薬学業界における最も優れた専門家として表彰された。フィリピン大学薬学部の教育者としては、最高位から2番目の「教授ランク12」。



イーシェン・ヘイマン・リー

I-Hsuan, Heyman, Lee
 ルイ薬局・トライメディカル薬局
 コンサルタント薬剤師

台北大学薬学部を卒業後、台北医科大学薬学部臨床薬学社会人修士コースで科学修士を取得。介護支援、薬学的ケア、薬局マネジメントを専門とする。学生時代には台湾薬学生連盟副会長、アジア太平洋薬学生会議事務局を務め、現在も台湾在宅医療協会事務次長、台湾若手薬剤師会会長を務めるなど、薬剤師の職能を高め、社会に働きかける活動を熱心に行っている。



アッセンハイマー慶子

Keiko Assenheimer
 セントラルアポテーケ開設者
 JACP理事

1986年神戸女子薬科大学(現神戸薬科大学)卒業。ドイツ・チュービンゲン大学薬学部大学院在学中にドイツ薬剤師国家試験に合格。1995年ドイツ人薬剤師と結婚、夫の薬局で経営を学ぶ。1997年ロッテンブルクに薬局を開設。2003年よりドイツ薬学視察旅行の受け入れ薬局、ドイツ側の窓口としてドイツ薬局関連情報を提供。2013年JACP設立に携わり理事に就任。



岡田 浩

京都大学大学院医学研究科
 社会健康医学系専攻健康情報
 分野特定講師・薬剤師

1990年福岡教育大学卒業、2005年長崎大学薬学部卒業、2014年まで保険調剤薬局に勤務。2012年京都大学大学院理学研究科修士課程修了、2016年同大学院医学研究科社会健康医学博士後期課程修了、DrPH。2017年カナダ・アルバータ大学EPICOREセンター Postdoctoral Research Fellow、2019年より現職。薬局企業と共同で薬局研究を行っている。

パンデミックにおけるフィリピン薬剤師の活動

アジア薬剤師会連合 (FAPA) 会長・前フィリピン薬剤師会会長
ヨランダ・ロスレス (YOLANDA R. ROBLES)
<代読: JACP理事 篠原久仁子>

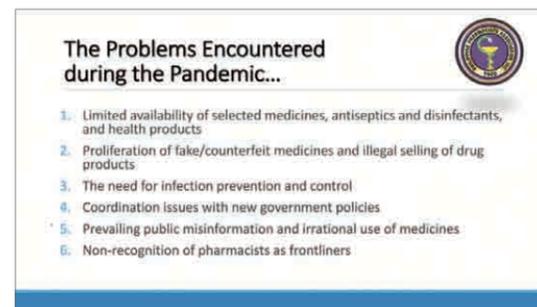
2020年7月16日現在、フィリピンの新型コロナウイルス感染状況は、累計陽性件数が61,266、死者数が1,643となっています。

パンデミック状況下における、医薬品・食品・医療機器に関連した問題を、フィリピン薬剤師会が分類したものが図Aです。3月10日に結成された、フィリピン薬剤師会の新型コロナウイルス対策チームが、この問題に対してどのように活動したか、紹介します。

医薬品等の供給制限に対しては、入手について問い合わせを受けた際に、薬品の供給元に連絡を取り、在庫状況や流通状況を確認します。必要としている患者には、在庫のある店舗の案内もしています。偽薬の蔓延と、医薬品違法販売に対しては、販売元の調査、フィリピンFDAへの通報のほか、勧告やガイドラインをソーシャルメディアに掲載し、一般の人々の注意を喚起しています。間違った情報の拡散等に対しては、オンライン薬剤師相談、9つの主要言語での新型コロナウイルスの薬局用リーフレットの作成、独自の健康情報のインフォグラフィックス開発など、さまざまな対策を講じました。薬剤師会のフェイスブックページではメッセージチャットを運営し、迅速な対応が必要な質問等には、グループで話し

合って適切なメンバーに任務を課し、個別に対処する体制を整えました。薬剤師が最前線の医療専門職として認知されない問題には、最前線で働く人々へのお祈りの言葉のメディア掲載、応援ダンスナンバーやファイトソングの制作などで、薬剤師の士気を高めました。

今回のパンデミックは、国における薬剤師、薬局、薬剤師会の価値と役割を浮き彫りにし、薬剤師は優れた医療専門職・公衆衛生専門職として活躍しています。



図A: パンデミック下での医薬品・食品・医療機器に関連した問題

コロナに負けるな! 薬局を中心としたドイツの取り組み

セントラルアポテーク開設者・JACP理事
アッセンハイマー慶子

コロナ禍中のドイツの薬局での取り組みを紹介します。この数ヶ月、「スタッフや家族や自分自身が感染してしまったらどうしよう」という恐怖・緊張の中で、4つの業務を途切れさせないことに努力してきました。すなわち、Beliefern (医薬品の供給、自宅への配送)、Beraten (相談、提案、助言)、Betreuen (お世話)、Beruhigen (不安を取り除く)。4B対策などと呼んでいます。

3月には、医師の自主隔離で休診が増えました。処方箋を発行できても患者さんに届かない中、薬局では、医院からも直接メール・ファックスで処方箋を受け付け、配達業務を強化しました。非常に珍しいことですが、配達に特別加算報酬がつくようになりました。消毒液の不足においては、地域の化学メーカーや蒸留所から原料を確保し、既製品が市中に行きわたるまで、薬局で消毒液を製造して販売しました。原料価格高騰の中、どこの薬局も良心的な価格を保ち、「薬局の調合品なら安心です」と喜ばれました。

マスク着用の習慣のないドイツですが、薬局では早くからマスク着用を奨励してきました。地域の新聞やラジオと協力して自宅での製作を呼びかけ、薬局でも紙ナプキンでマスクを作りサンプルとして



図C: 患者さんの孤立・孤独感を防ぐ取り組み

薬局に渡しました。4月に入り少しずつマスクが入荷してからは、1枚から小分け売りをして多くの人に渡せるようにしました。図Cのような、患者さんの孤立と孤独感を防ぐことにも取り組みました。配送品に手書きの気遣いのメッセージを添えたことは、特に高齢者に喜ばれ、お礼の電話もいただきました。

安心安全を地域に届けることは薬局の責務です。今後、第二波も想定し、医薬品、感染防護具の備蓄がさらに大切だと思います。

コミュニティファーマシストの視点から ~新型コロナに対する台湾の戦略~

ルイ薬局・トライメディカル薬局コンサルタント薬剤師
ヘイマン・イーシェン・リー (I-HSUAN, HEYMAN, LEE)
<代読: JACP理事 末澤克己>

本講演では、新型コロナウイルスパンデミックに対する台湾の戦略、その中での薬局薬剤師の役割について紹介します。

台湾では、国立保健司令センター (NHCC) であらゆる情報を統合する戦略を取っています。旅行の警告、マスク供給量の増加と販売規制、検査や隔離、医薬品資源の確保なども主導しています。

その中で、薬局薬剤師は、消毒用アルコール、衛生用品やマスクなどを一般市民に配給する役割を任せられました。マスクは実名

制販売となり、当初市民は、かかりつけ薬局で、1週間あたり2枚を、1枚5台湾ドル (18円) で購入することができました (2020年8月時点では14日間で9枚、6月から一般販売店でも購入可能)。薬局薬剤師の公衆衛生における役割が再定義された初めての取り組みです。薬剤師は、毎日郵便局からマスクを受け取り、数を確認、政府規定の健康情報が掲載された個別パックに包装します。薬剤師は、健康保険証と配給システムで全員の身分と数量を確認し、着用方法や感染防止の教育も行います (図B)。台湾では、薬局で薬を受け取る患者は35%でしたが、感染防止のため薬剤師会が薬局でのリフィル処方推進し、希望する患者が増えています。台湾国民は身近な公衆衛生の守護者として薬剤師の価値を認識したのです。

私が会長を務める台湾若手薬剤師会 (TYPG) の活動もご紹介します。今回のパンデミックでは、手洗いやマスクの適正購入を呼びかけるポスターを作成したり、最前線の医療者としてプレッシャーを抱えた薬剤師に向け、オンラインカウンセリングサービスを提供しています。公衆衛生の役割もより明確になった今、社会における薬剤師の役割を一層強化することに貢献したいと考えています。



図B: かかりつけ薬局でのマスクの実名販売

薬局をクラスターにするな! ~京都大SPH薬局情報グループCOVID-19対策プロジェクト~

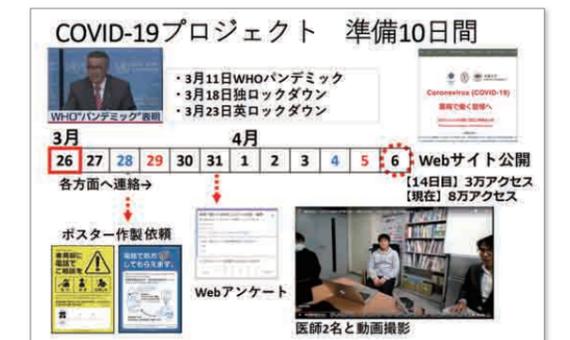
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野特定講師・薬剤師
岡田 浩

「Covid-19対策プロジェクト」についてお話しします。私にはカナダ、イギリス、オーストラリアなどに共同研究者がいて、日本よりも感染拡大が1カ月早かった地域の情報が入ってきていました。そこで、これらの地域を参考に、日本で薬局が感染源とならないように、情報発信をするプロジェクトを立ち上げました。図Dのようなスケジュールで、4月初旬にサイトをスタートさせました。

各国の対策を紹介します。カナダでは、アルバータ州は以前から新規処方、注射処方、臨床検査など、医師と独立して薬局で行う権限がありましたが、COVID-19の感染拡大により制度が改正され、他の州でも規制をなくすところが増えました。カナダ薬剤師会では、薬局で使える啓発ポスターの配布、ウェブサイト上のFAQ集やウェビナーの公開などに力を入れました。イギリスの薬剤師会もFAQ集を充実させています。オーストラリアの薬剤師会では、会長が自ら毎週1本、動画をアップしています。毎回、「薬剤師はフロントラインだ。頑張れ。患者さんに正しい情報届けろ」というほぼ同じ話なのですが、薬剤師会が「フロントラインの皆さん、応援してますよ」というメッセージを盛んに出すのは素晴らしいと思います。

私たちのサイトでは、これらを参考に、ポスターや新聞などの配布

資料、大学の感染症専門医に協力してもらった感染対策の動画など、多くのコンテンツを用意しました。14日目に3万、2020年8月現在で8万5千ほどのアクセスを記録しています。初期にアクセスが多かったのは、飛沫防御具のDIYコーナーで、1週間で3千ほどアクセスがありました。このサイトは、FIPのガイドラインなど現在もアップデートしています。ぜひご訪問ください。
<https://www.kyoto-sph-pharmacy.com/covid-19>



図D: COVID-19対策プロジェクトの立ち上げまで

第2部

ポストコロナ時代に向けて 新しい生活様式(ニューノーマル)を創る



モデレーター
株式会社日本アポック顧問・JACP理事
浜田康次

それでは、第2部「ポストコロナ時代
に向けて新しい生活様式(ニューノ
ーマル)を創る」を開始いたします。

第1部では、世界に視野を広げて、新型コロナウイルス感染症対策の現状を見てきました。第2部では、時間軸を少し未来に向けて、コロナに負けない知恵を探ってみたいと思います。

第2部前半は、「ICTを活用したつながりを創る」をメインテーマに、3名のヘルステック企業のリーダーに、ポストコロナ時代を生き抜く知恵や、今後の展望を語っていただきます。ヘルステックは、ヘルスとテクノロジーを組み合わせた造語になります。ヘルスは、創薬、診療、調剤、介護など、リアル

ワールドの仕事が該当します。もう一方のテクノロジーとしては、ICTやAI、ディープ・ラーニングなど、さまざまな技術があります。医療分野の多くの課題を解決する手段として、ヘルステックは現在、大変期待されています。中でも、オンライン診療やオンライン服薬指導は、新型コロナウイルス感染症対策として、今後早急に確立されようとしている分野といえます。3名の発表で、今後の薬局のあり方を考えていただければと思います。

そして、第2部の後半では、「コロナ禍でもコミュニティファーマシー化を推し進めた薬局」というテーマで、3つの薬局から、新型コロナウイルス対策や、日頃の活動について発表いただき、「日本の薬局も負けてはいない」ことを示していただきます。最後に、JACP理事で小児科専門医の服部益治氏に、総括として、新しい時代の薬剤師と薬局が進むべき道についてお話しいただきます。

ICTを活用したつながりを創る



with コロナが創る新世界 ~地域(コミュニティ)でシームレスに繋がるヘルスケア~

メドピア株式会社 代表取締役社長・医師 石見 陽

メドピア株式会社は2004年に設立。医師同士が情報交換できる集合知のプラットフォーム「MedPeer」など、医療×ITの領域で事業を展開しています。「Supporting Doctors, Helping Patients.」をミッションとし、医師・医療従事者とその先にいる患者さんをサポートするサービスを運営しています。

新型コロナウイルスの感染拡大下では、オンライン診療・オンライン服薬指導に時限的特例措置が認められるなど、医療提供のあり方が大きく変わりつつあります。その中で、医療従事者と患者さんが非対面で繋がれるITサービスは、その重要性を増していくものと考えられます。

その一例として、コロナ禍で利用が増加している、当社のかかりつけ薬局化支援サービス「kakari」をご紹介します。「kakari」には、紙の処方箋をスマホで撮影して薬局に送る処方箋送信機能や電子お薬手帳はもとより、双方向チャット、服薬フォロー、ビデオ通話、オンライン服薬指導等の薬局と患者さんがアプリ上で繋がれる機能が実装されています。4月の緊急事態宣言以降、「kakari」のインストール数が急激に伸びました。背景には、患者さんが二次感染の不安を抱え、薬局に行くことを控えた人が増える中、薬剤師に対する相談ニーズが高まったことがありと推察しています(図A)。特に双方向チャット機能は

想像以上に利用されています。このことから、薬局時のみならずオンラインでも薬剤師と患者さんが適切にコミュニケーションを取れる環境の整備が、ますます重要になってきていると感じています。

コロナ禍により、今後は薬局に限らず医療従事者と患者さんのコミュニケーションスタイルが変容していくと思います。当社としても、コロナ禍が問う新しい医療提供の形をITサービスを通してサポートをしていけたらと思います。



図A: 新型コロナウイルス後、kakariの利用が増えた理由



ICTを活用したDr.JOYのソリューション

Dr.JOY株式会社 代表取締役社長・医師 石松宏章

Dr.JOY株式会社は、2013年に設立、医療業界に特化した働き方改革を支援するシステム「Dr.JOY」を提供する会社です。Dr.JOYは、6,785の医療施設で導入され、多くの機能がありますが、薬局で活用できる機能をいくつか紹介します。

「地域連携」。コロナ環境下、病院の薬剤部と調剤薬局との勉強会の開催も難しいところですが、Dr.JOYでは、地域の連携グループを作ってタイムライン形式での情報共有、PCでもスマホでもビデオ会議ができます。また、Dr.JOYには、医師とMRをつなぐ機能があり、MRの9割が登録しているため、MR、MSの協力を得ながら、地域内で連携グループを広げていくことも可能です。MRとのコミュニケーションではほかにも、患者指導センの発注を一本化した機能があり、クリックひとつで地域にいるMRに連絡することができます。

「薬業連携」は、病院と調剤薬局の情報共有の機能です。トレーニングレポート、図Bに示す疑義照会簡素化プロトコルのほか、病院の採用薬情報、調剤薬局の在庫薬情報などの共有もできます。



図B: よくある疑義照会を減らしていく疑義照会簡素化プロトコル

情報ソースの多い薬剤の検索をひとつにまとめられないかと、「薬剤検索」機能では、添付文書情報、製剤写真はもちろん、複数薬剤の串刺し検索も行えるようにしました。識別コードからも検索できます。そして「副作用検索」では、モバイルでも効率的にPMDAの有害事象報告に上がっているデータを定量的に見ることができ、こちらも、複数薬剤で同時に検索できる機能を備えています。



患者満足と薬局の働き方改革を支援する ~薬局体験アシスタント「Musubi」~

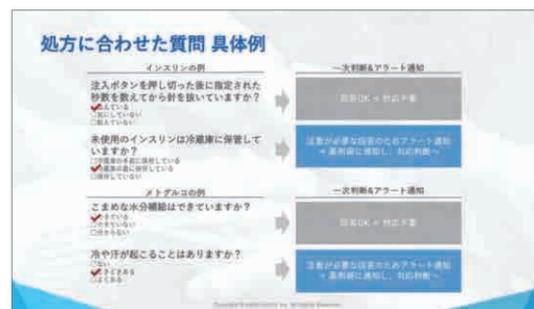
株式会社カケハシ 代表取締役社長 中尾 豊

株式会社カケハシは、「日本の医療体験を、しなやかに」というミッションのもとに事業展開しており、薬局の本質を「患者さんに喜ばれること、安心感や利便性を提供すること」と捉え、「Musubi」というシステムを開発しました。Musubiは、薬剤師の働き方や薬局の経営を変え、患者さんに価値を届けるツールです。

Musubiを開発するにあたり、業界の課題を3点にまとめました。1点目は、薬剤師の業務が多様化していること。多種多様な

業務を抱える中、効率化が必要です。Musubiの服薬指導支援は、服薬指導をしながら、それをそのまま薬歴に残すことができました。また、患者さんの疾患や体質などに合わせて、生活や食事、運動などのアドバイスが自動選出され、患者さんに寄り添った会話と健康情報の提供を自然に行うことができます。2点目は、経営上の情報が少ないこと。情報の見える化と整理が必要です。Musubiは、たとえば各業務にかかる時間を薬局ごと、薬剤師ごとに分析するなど、業務状況や収益を見える化して改善点を明確にし、生産性の向上を図ります。3つ目は、患者さんへのタッチポイントの少なさです。患者さんが辛い時、不安な時、自分の行為が間違っている時に、薬剤師が適切にアプローチできれば、患者さんに安心と喜びを届けられます。それを可能にするのが、服薬期間中に薬剤師が患者さんをフォローできる「Pocket Musubi」というアプリです。服薬中にアプリを通じて、図Cのような質問を出し、回答によって必要なフォローをします。内容はMusubiの薬歴に自動転記され保存されます。

今後も、患者さんに付加価値を届け、薬局がもっと強くなれるようITを活用したソリューションを提供していきます。



図C: Pocket Musubi での質問とフォロー

コロナ禍でもコミュニティファーマシー化を推し進めた薬局



コロナ禍でもコミュニティファーマシー化を推し進めた薬局
～薬局におけるCSR(企業の社会的責任)とは～

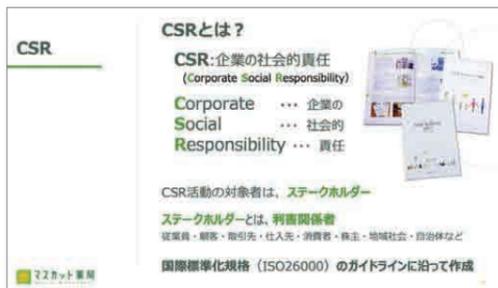
株式会社マスカット薬局 代表取締役 高橋正志

株式会社マスカット薬局は、平成10年に設立、岡山県内に14店舗を展開しています。本日は、当薬局のコロナ禍の対応とCSR(企業の社会的責任)活動についてお話しします。

当社では、新型コロナ感染者の発生後、素早く安全管理対策本部を立ち上げ、出社停止条件を作成し、三密の回避、出勤前の検温、アルコールでの手指消毒などを、全店舗に周知徹底しました。岡山県で新型コロナの感染者が発生したのは3月22日ですが、3月

半ばにアクリル板を注文して、4月初めには全店舗に配置していました。この早い対応は、アッセンハイマー慶子さんからドイツの感染状況と対策を聞き、東京の状況も参考にして可能になりました。店内の対策のほか、小学校を訪問し、手洗い教室も実施しました。テレビでも報道され好評で、秋に再実施も決まっています。アルコールが品薄の際には次亜塩素酸水を使用しました。イスやカウンターの消毒をしていると、患者さんが見て「欲しい」と言われるので、無料で小分けもしました。事故防止のため、遮光の容器に入れて「飲んではいけない」というシールも貼って配布し、大変好評でした。

私は、今後、薬局が存続するか否かは、薬局が、CSRつまり社会的責任(図D)を考えた行動を取るかどうかで決まると考えています。当社はCSRの一環として、障害者支援事業所で作られた製品の販売や認知症カフェ、地域の健康イベントへの参加などに力を入れています。地元の新聞社との協働イベントでは、参加者からも新聞社からも「薬剤師とこんなにじっくり話したのははじめて。とても参考になった」と感想をいただきました。CSRレポートを当社ホームページに掲載していますので、ぜひご覧になってください。



図D: CSR～企業の社会的責任



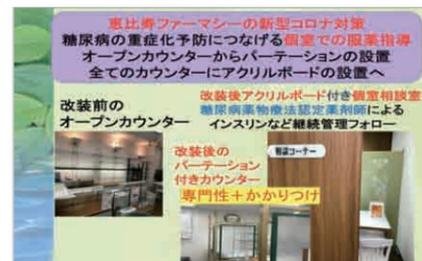
新型コロナ対策と薬局の健康支援

株式会社フローラ 代表取締役・JACP理事 篠原久仁子

株式会社フローラが運営する薬局は、ドイツをモデルにした地域の健康サポート薬局です。薬草ハーブ園があり、1996年の開局以来、漢方・薬膳講座を開催してきた本店のほか、自家発電システムや、無菌調剤室を完備した店舗など、茨城県に3店舗を運営しています。そして2019年7月に、糖尿病の専門的な療養指導士のいる、歴史ある薬局恵比寿ファーマシーを継承しました。今回は、この薬局での新型コロナ対策やそのほかの取り組みについてお話しします。

薬局内では、消毒、マスク、フェイスシールド、防護服などで感染対策をしっかり行い、在宅医療では、診療・投与の現場にも出向いて、薬剤師が専門的に判断し、その場で処方提案することで、追加処方や臨時処方の少ない、効率の良い訪問にして、感染リスクを低減することに貢献しています。図Eのように、薬局の改装も行いました。先ほどの講演で紹介された「Musubi」を使い、オンライン服薬指導にも取り組みました。薬局の待合室での感染を防ぎ、家にある残薬の確認もできて、プライバシーが保たれるため、患者さんが安心して話せる雰囲気を感じることができました。本店で行っている漢方・薬膳・ハーブの教室を、薬局恵比寿ファ-

マシーでも開催しています。糖尿病患者さん、喫煙者など、感染リスクの高い方々には、ラベンダーの抗菌アロマスプレーを勧め、予防に役立ててもらいました。コロナ禍で、処方箋が約2割減少しましたが、正しい消毒やハーブの役立つ情報の発信をきっかけに、医師との信頼・連携が深まり、新しいファンが生まれたことで、保険外の収益が増え、最終的な売上げが減少せずに済みました。新時代、薬剤師に期待される薬事・衛生の役割を、多様な形で果たしていきたいと思っています。



図E: 薬局恵比寿ファーマシーの新型コロナ対策・薬局の改装



のぞみ薬局における日頃の取り組みと
COVID-19の影響

株式会社フォーリーフ のぞみ薬局 岡 敦子・伊藤 愛

のぞみ薬局は、人口約14万人、高齢化率33.5%の広島市安佐北区内に5店舗展開する薬局です。高陽店の取り組みをご紹介します。

ほとんどの方が車で来局されますが、コロナの対応では、発熱者に車内で待機していただき、電話での服薬指導後に車に投薬に行くなど、車をうまく活用できました。車のない発熱者に対しては、薬局内から屋外に投薬する臨時窓口を使用しました。元々、防犯上の目的で作った夜間の投薬用窓口です。インフルエンザ等を想定し、トイレ完備した隔離室を設けていますが、この部屋までの導線がどうしても一般の患者様と交わるため、今回は使うことができませんでした。待合室は、以前は人のつながりを重視していましたが、空間を広くとり、ぬいぐるみも撤去し、密を避けた仕様になりました。

図Fは、処方箋枚数の比較です。2019年と2020年で、あまり大きな変化はありません。処方元の医療機関数にも変化がなく、処方日数には若干伸びが見られましたが、枚数に影響するほどではありませんでした。この高陽店は、2017年4月に健康サポート薬局を目指して開局、機械化を進め対人業務を強化し、2018年6月に健康サポート薬局に認可されました。服薬指導での多数の質問や服薬期間中の

COVID-19流行前後での比較

処方箋枚数		
高陽店	2019年	2020年
3月	3751	3990
4月	3810	3804
5月	3815	3749

コロナ流行前後で処方箋枚数に大きな変化はなかった。

図F: 2020年3～5月の処方箋枚数・前年比

フォローなど、薬をもらいに来た患者様にとっては、非常に面倒な薬局ともいえます。最初はクレームもありましたが、3年間この体制を続けてきて、現在ご利用いただいている患者様は、健康志向の高い、あるいは医療ニーズの高い方が多くなっています。そのため、処方箋枚数が減らなかったのではないかと思います。多職種の専門職が使命感を持って地域の健康増進に取り組むことで、住民に利用していただける薬局を作っていると考えています。



ニューノーマル時代に向けて、薬剤師、薬局の進む道

医療福祉センターさくら 院長・JACP理事 服部益治

1978年兵庫医科大学卒業、1982年同大学大学院医学研究科修了。重井医学研究所附属病院院長、アメリカ・ミネソタ州立大学への留学等を経て、2004年兵庫医科大学小児科学教授に就任。2018年より、兵庫医科大学特別招聘教授、および現職。

本日のフォーラムの第2部のタイトルには「ポストコロナ時代」という言葉があります。しかし、今回のコロナが終わったとしても、新たなウイルスが出てくる可能性があります。また、新しい生活様式が叫ばれる中「元に戻るのはいつか」と言われますが、戻ることを考えるより、今から新しい生活をするのが大切です。

図Gに、ここ50年間に出てきたウイルスをまとめています。右側に示すように、21世紀に入った後にも新型ウイルスが登場し、現在も、ハンタウイルス、新型ブニヤウイルスが出てきているという話があります。ですから「コロナの収束がいつか」「元に戻るのはいつか」ではなく、戻ることを前提にしないで、新しい生活様式、日常のニューノーマルを考えることが大切になります。また、ご存知のように、細菌に対しては抗菌薬による耐性菌問題もあります。この問題も人間の脅威であり、薬の適切な活用において薬剤師の任務の重要性を、心していただければと思います。医学を振り返ると、20世紀は個人の病気を「治療する」時代でした。21世紀は社会全体の

「健康管理」が求められる時代です。個人だけでなく社会全体を考えて、治療薬と予防接種を扱ってほしいと思います。

さらに、海外で進む医師のタスクシフティングが、日本においても、2025年には医師の働き方改革として本格的に導入されます。医師の仕事の多くが、薬剤師・看護師、そしてAIに移ることが計画されています。これに向かっても、新しいスタートを切り、今すぐ、ニューノーマルを実践していただきたいと思っています。



図G: 過去50年間の主な新興ウイルス

広告出稿企業紹介

「第7回コミュニティファーマシーフォーラムWEB」の開催趣旨に賛同の上、協賛と広告出稿を行っていただいた企業を紹介します。一部の企業からは動画CMの提供もあり、フォーラム開催前後に流して、多くの参加者が視聴することができました。



Central Apotheke



コロナ禍中、地域住民に医薬品はもとより安心と勇気を与えるのがドイツの「いきつけ薬局」です。日本人薬剤師の薬局として、日本の良さをドイツに、ドイツの良さを日本に伝える仕事もしています。

PHC株式会社(東日本メディコム)



保険薬局のICT化をリードし、電子薬歴シェアNo.1※。病院・診療所・保険薬局・患者間の情報共有に貢献し、地域医療連携を推進します。
※株式会社富士経済調べ(2020年1月)

PRIMAVERA



ドイツ語圏最大のオーガニック精油メーカー。ドイツの伝統的な植物療法や芳香療法を最大限に取り入れ、農家とのパートナーシップを大切に製品作りで、健やかなライフスタイルを提案します。

エーザイ株式会社



患者様目線を大切にしたhhc(ヒューマン・ヘルスケア)の理念でビジネスを遂行。「イータック」は持続型抗菌成分Etak®の作用で抗菌バリアが1週間持続し、ウイルス・菌から大切なモノを守ります。

株式会社エニクリエイティブ(MIL)



1999年に開催した「MIL薬学生のための就職セミナー・合同会社説明会」が始まり。薬学生と大学関係者の皆さんに、薬剤師の職能とは何かを考えていただくための情報誌です。(季刊発行/電子版有)

大塚製薬株式会社



ニュートリション(栄養)とファーマシューティカルズ(医薬品)を合わせた言葉「ニュートラシューティカルズ」。代表例「エクエル」は、女性の美と健康のためのエビデンスに基づいた製品です。

株式会社カケハシ



患者満足と薬局の働き方改革を支援する薬局体験アシスタント「Musubi」。患者さんごとに適した服薬指導をサポート。薬歴業務を効率化し、負担を軽減します。HPでセミナー情報やお役立ち資料を公開中。

サンスター株式会社



オーラルフレイルは全身のフレイルに関わっています。お口の健康が、人々の幸せな暮らし、生き方、そして命にまでつながっているというメッセージを伝えるアニメーション制作、公開しています。

シースリー株式会社



未検診・未受診・未介入といった医療課題の解決に向け、IT/データ活用、人をつなげるしくみ作り、継続性ある医療収入の適正化などを実現、自治体・医療機関等をつなぎサポートしています。

太陽化学株式会社



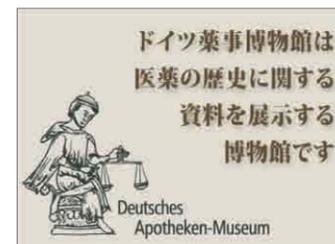
70年の歴史を持ち、2千種類の素材を国内外に販売する食品素材メーカー。「サンファイバー」は全国5千ヶ所の医療・介護施設で採用され、排泄ケアや術後の栄養サポートに幅広く使われています。

テララボ



地域のお寺や関連分野の専門家と連携し、認知症の介護者や家族を対象に「認知症に学ぶ地域交流拠点」として活動。専門家向けには「認知症に学ぶ」をテーマに、セミナー等を開催しています。

ドイツ薬事博物館



JACPは、ドイツ薬事博物館の賛助会員です。ハイデルベルク城内にあるドイツ薬事博物館は、医薬の歴史資料を集めた博物館であり、JACPのドイツ薬学視察旅行では必ず訪れる場所です。

東武トップツアーズ株式会社



東武トップツアーズは17年間ドイツ薬学視察旅行の企画・実施をしている実績のある会社です。旅行に関することなら国内・海外旅行、ホテル予約、出張手配まで。現在GoToトラベルキャンペーンを承っております。

ネオフィスト研究所



Withコロナ時代の薬剤師教育。ネオ(neo)は新しい、フィスト(pharmacist, humanist)を意味した造語です。今回のコロナ禍を受けてニューノーマル創りを模索中です。今後の研修はウェビナーへとシフトさせていただきます。

映画「ピア～まちをつなぐもの～」



実家の医院で訪問診療を始めた若い医師が、地域で活躍する多職種や患者家族と出会い成長していく物語。看取り・認知症・ポリファーマシーなど、在宅医療と介護に関わるテーマを描いています。

株式会社ビーアンドエス・コーポレーション



日本初のヨーグルト製造・販売企業です。現在は、100年の乳酸菌研究成果「乳酸菌生成エキス」、九州大学と共同研究の認知症対策「ホタテ由来プラズマローゲン」を医療施設に提供しています。

東日本メディコム株式会社



月に1回・10分の簡単な体力測定と、日常の活動を記録するシステム「FAIT(ファイト)」を提供。継続的に健康サイクルを回すことを通じ、フレイル予防や健康長寿の実現をサポートしています。

株式会社ユヤマ



薬局・病院・診療所に向け、分包装を始めとした調剤機器、各種薬剤業務支援システム及び設備や電子カルテ、滅菌器などを製造販売しています。自社開発体制により、トータルなサポートを実現いたします。

フォーラム宣言

フォーラムの最後に、JACP理事の島田光明氏(株式会社ファークロス代表取締役)より、閉会の挨拶に併せ、「フォーラム宣言」が発表されました。



株式会社ファークロス代表取締役
JACP理事
島田光明

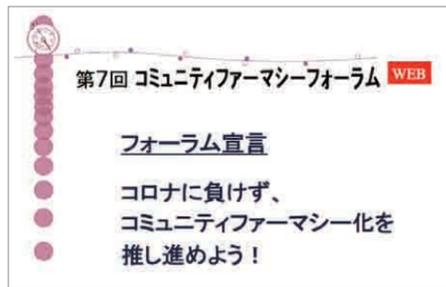
長時間にわたり、演者の皆さん、そしてネットでご覧の多くの皆さん、大変お疲れ様でした。

海外での感染対策、ICTを活用した医療の取り組み、そして、海外に負けず、コロナ禍中でも成果を出している日本の薬局についてご紹介いただきました。皆さんはどう感じになられたでしょうか。

今回のコミュニティファーマシーフォーラムWEBの総括といたしまして、最後に、フォーラム宣言を示します。
2020年、第7回コミュニティファーマシーフォーラム

宣言は、「コロナに負けず、コミュニティファーマシー化を推し進めよう!」です。

この宣言のもと、JACPは、皆さんの薬局が地域でさらに貢献するコミュニティファーマシーとして活躍されることを願っております。



フォーラム協賛企業

株式会社CTL
Dr.JOY株式会社
H2株式会社
株式会社インテグリティ・ヘルスケア
株式会社かくの木
株式会社杏林堂薬局
株式会社グッドサイクルシステム
株式会社グッピーズ

サラヤ株式会社
三昇堂印刷株式会社
株式会社タカゾノ
中日販売株式会社
トータルディフェンス株式会社
株式会社トレジャー
日本ケミファ株式会社
株式会社ネオプラスファーマ

株式会社ファークロス
一般社団法人大阪ファルマプラン
株式会社フォーリーブ
フタツカ薬局グループ
株式会社フローラ
株式会社マスカット薬局
株式会社メディカルリンク

JACP入会のご案内

<入会特典>

1. 本協会が主催する各種学術大会における発表資格
 2. 本協会の催す研修会、講演会参加費の優遇
 3. ドイツ薬学視察旅行参加費の優遇
 4. 本協会が販売・推奨する製品やサービスの割引
 5. 会報誌ApoBitte! 年1回発行
 6. 会報誌ApoBitte! かわら版年4~5回発行
 7. 会員に役立つメールマガジン月に4~6回配信
- *会員の種別により特典の内容が異なる場合があります。
詳しくはホームページにてご確認ください。

<入会金および年会費>

- 正会員 入会金 5,000円 年会費 5,000円
正会員(賛助会員・薬局会員所属の従業員)
: 入会金 0円 年会費 3,000円
薬局会員: 入会金 30,000円 年会費 1店舗当たり10,000円
学生会員: 入会金 0円 年会費 1,000円
賛助会員: 入会金 0円 年会費 1口 50,000円×2口以上
*入会申込みは、ホームページよりお願い申し上げます。

<http://www.ja-cp.org>



JACP 2019~20年の 活動報告



2019年9月●第5期・第3回CP研究会
(東京秋葉原) 講師は岡田浩氏



2019年9月●第3期・第1回健康サポート
経営塾(東京秋葉原) 講師は高橋正志氏



2019年9月●FIP(国際薬剤師・薬学連合)国際会議アポビッテ参加



2019年9月●ApoBitte! Vol.6発刊



2019年9月●第1回薬局団体連絡協議会シンポジウムを他2団体と共同開催(東京品川)



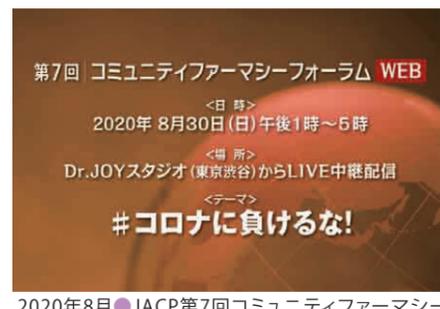
2019年11月●第5期・第4回CP研究会
(東京秋葉原) 講師は城戸真由美氏



2019年10月●2019秋・CP関西セミナー(大阪市) 講師は笠木伸平氏



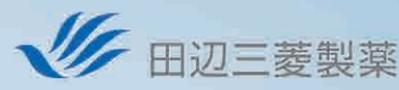
2020年3月●第6期・第1回CP研究会/2020春・CP
関西セミナー(東京秋葉原) 講師は吉岡ゆうこ氏



2020年8月●JACP第7回コミュニティファーマシーフォーラムWEBを開催



2020年9月●JACP理事の山村重雄氏がFIP(国際薬剤師・薬学連合)のフェローに選出



KAITEKI Value for Tomorrow
三菱ケミカルホールディングスグループ

この手で、 未来を。

感じる 描く 動かす
創る 育てる 届ける
そして 抱きしめる

健康で長生きできる未来を
病とその不安を乗り越える未来を
理想のその先にある未来を

一人ひとりの手で
みんなの手で
希望を信じるこの手で



田辺三菱製薬のシンボルマークは手のひらをモチーフにしています。

www.mt-pharma.co.jp